



コミュニティ・スクール基本理念

一地域の中で、みんなで生き生きと学ぶ川崎っ子の育成

川崎小学校 めざす学校像

ふれあいを通して人と人がつながり、学びにあふれる学校

NO.12 令和7年9月8日 校長

みえスタディ・チェックの結果分析をすすめています

みえスタディ・チェックとは・・・

これまでに行われてきた「全国学力・学習状況調査」等の解答状況を分析して三重県教育委員会が作成した問題で、県下の小学校4・5年生が取り組んでいます。前学年までに学習した内容が出題され、その定着度を測るものです。また、児童が自らの学習定着状況を確認し、目標をもって主体的に学習に取り組むこともこの調査の目的の一つです。教員側は児童の学習定着状況を把握し、授業改善及び個に応じた指導の充実などに活かしていきます。

5年生は、算数、国語、理科の3教科において、4年生は算数と国語の2教科において取り組みました。

～5年生「みえスタディ・チェック」の結果から～

	年度	R7年度	R6年度	R5年度		年度	R7年度	R6年度	R5年度		年度	R7年度	R6年度	R5年度
	差	▲5.8	16.7	-16.7		差	▲10.5	▲2.7	▲11.4		差	▲15.6	▲7.1	▲18.8
国語	川崎小	49.4%	65.5%	35.2%	算数	川崎小	45.3%	53.4%	46.0%	理科	川崎小	39.5%	44.7%	32.7%
	三重県	55.2%	48.8%	51.9%		三重県	55.8%	56.1%	57.4%		三重県	55.1%	51.8%	51.5%

～4年生「みえスタディ・チェック」の結果から～

国語	年度	R7年度	R6年度	R5年度	算数	年度	R7年度	R6年度	R5年度
	差	10.5	▲15.4	2.4		差	12.9	▲14.8	▲4.9
	川崎小	69.2%	42.4%	62.6%		川崎小	73.8%	44.2%	53.9%
	三重県	58.7%	57.8%	60.2%		三重県	60.9%	59.0%	58.8%

【川崎小学校の子どもたちに見られる傾向】

三重県の結果と比べてみると、R7年度の5年生の国語は5.8ポイント、算数は10.5ポイント、理科は15.6ポイント県平均を下回りました。

5年生におきましては、大きく県平均を下回っているものの、昨年度の4年生時には、国語科が15.4ポイント、算数科が14.8ともに県平均から下回る結果でしたので、改善傾向がみられました。

一方、4年生は国語が10.5ポイント、算数が約12.9ポイント県平均を上回っています。

昨年度から特に県教育委員会、市教育委員会の指導を仰ぎながら、授業改善に取り組んできた成果が少しずつですがあらわれてきました。

年度によって、問題や受験者が異なるために一概には比較できませんが、課題を真摯に受け止め、教育活動の改善を図ってまいります。

【川崎小学校 5 年生の子どもたちに見られる傾向】

【5年生国語】

- 得意不得意問題に差があることがわかってきました。
 - ◎: 15問中3問で県平均を10ポイント以上、上回っています。
 - ▲: 15問中7問で県平均を10ポイント以上、下回っています。
 - △: 15問中1問で県平均を5ポイント以上、下回っています。
 - ▲: 県平均を10ポイント以上下回っている問題の概要は以下の通りです。文面から分析したり、理由を記述したりする問題を苦手としています。
 - ◇ 文脈に沿って漢字を書く(静か)
 - ◇ 示された述語に対応する主語を選択する
 - ◇ 主語と述語のつながりが合っていない文を選択する
 - ◇ 地域の人たちと交流会でしたい昔の遊びを一つ選び、その理由を複数の資料の内容から取り上げて記述する(60字~100字)
 - ◇ 【報告内容】の空欄に当てはまるよう【アンケート結果】の質問2から分かることを数字を入れて記述する(50字~60字)
 - ◇ 〈絵3〉の場面が始まるまともりとして適切なものを選択する
 - ◇ 声に出して読むときの工夫とその理由を書く

【5年生算数】

- 引続き基礎学力の定着に努める必要があることがわかってきました。
 - ▲: 16問中10問で県平均を10ポイント以上下回っています。
 - ◇ 85764を四捨五入して、百の位までの概数で表したものを選択する
 - ◇ 30人が1つの長椅子に4人ずつ座るときに必要な長椅子の数を求める式と答えを選択する
 - ◇ $1.5 \div 3$ の式で求められる問題を全て選択する【少数のわり算の意味を理解する問題】
 - ◇ 20mlは8mの何倍かを求める
 - ◇ 午前10時45分から午後1時30分までの時間を求める
 - ◇ 90° 、 180° 、 270° 、 360° を基準として角の大きさを見当付けたものから、正しいものを選ぶ
 - ◇ 分度器の目盛りを読み、 180° より大きい角の大きさを求める【 180° の角の大きさを理解する問題】
 - ◇ 示された図形の面積を求めるために、長方形ABHFを長方形EHCDの上に動かしてできた長方形AHCFのたての長さを表す式を書く【長方形を組み合わせた図形の面積の求め方を、条件に合わせて説明(記述)する】
 - ◇ 本の貸出冊数について、3つの棒グラフから分かることとして正しいものをすべて選択する【示された3つの棒グラフから必要な情報を読み取る】
 - ◇ 二次元表の□の部分の数を使って描いた棒グラフを選択する【めもりを確認しながら棒グラフを正確に読み取る】

【5年生理科】

- 引続き理科的なものの考え方、基礎学力の定着に努める必要があることがわかってきました。
 - ▲: 22問中17問で県平均を10ポイント以上下回っています。
 - その中でも特に正答率の低かったものは以下の通りです。
 - 見いだされた問題を基に、観察の記録が誰のものであるかを選ぶ

- 鉄棒に付着していた水滴と氷の粒は、何が変わったものかを書く【水は水蒸気になって空気中に含まれていることを理解している】
- 台ばかりの目盛りを読む
- 実験結果を基に、水のあたたまり方について考えた文の空欄に入る適切な言葉を書く【空気の温まり方について理解し、実験結果から選択する】
- 空気のあたたまり方の予想を基に、温度計が示す温度が高くなる順番を書く【空気の温まり方を理解している】

【川崎小学校 4 年生の子どもたちに見られる傾向】

【4年生国語】

- 全般的に県の平均正答率を上回っており、おおむね力がついているといえます。
 - ○：10 問中9問で県平均を5ポイント以上上回っています。
 - ◎：10 問中6問で県平均を10ポイント以上上回っています。
- 苦手な部分が浮き彫りになりました。
 - ▲：10 問中1問で県平均を10ポイント以上下回っています。
 - 県の平均正答率も全問題で一番低い 27.9%と低いですが、本校の平均正答率は 9.1%で同様の傾向を示しました。
 - 問題の概要は、【話し合いの一部】で出た、折り紙の良いところを全て取り上げ、話し合いで出た意見をまとめるものです。
 - この問題の無回答率が 7.6%で記述問題そのものに苦手意識のある児童が多いこと。
 - 要点をまとめて記述することに苦手意識があることがわかってきました。
 - 文面から概要や要点を抜き出し、記述する授業を行ってまいります。

【4年生算数】

- 全般的に県の平均正答率を上回っており、おおむね力がついているといえます。
 - ○：11 問中8問で県平均を5ポイント以上上回っています。
 - ◎：11 問中8問で県平均を10ポイント以上上回っています。
- 基礎的な計算力が身につけていない児童がいることがわかってきました。
 - △：11 問中1問で県平均を下回っている問題があります。
 - 問題は計算問題「 $806-9$ の計算」でした。
 - 計算を苦手としている児童に対し個別で指導していくとともに、学級全体でも引き続き、基礎的な計算問題もおろそかにすることなく、取り組んでいきます。

学力向上のための取組

先日、発行した全国学力調査の分析と合わせ、学校では、児童個々の課題には各個人の弱みを分析して対応します。

全体の傾向として、前年度の児童と同様、【国語科】は長い文章から必要な情報を読み取ること（何が聞かれているか）に課題があり、【算数科】は図や文章、式の比較などから、必要な情報を抜き出すことに課題があることから、全教科において、現在進めている問題文等の中で大事なところに線を引く活動を行い、焦点化しながら授業を進めます。

ご家庭におかれましても、今まで同様、お子様のノートや教科書でアンダーラインを引いてある箇所での学習におけるお話し合いをしていただければ幸いです。